

当院の新型コロナウイルス感染症対策について ～皆さまに安心・安全に受診して頂くために～

1 はじめに

今回の新型コロナ感染においてリスクが高いと言われる歯科医院ですが、当院は元から医院全体がインフルエンザなどウイルス感染の大流行を考慮した設計です。

平時では通常の歯科医院にはない過剰な設備と言われても、今般の情勢では必要なものが多くあります。全国でも珍しい様々な設備を持つ当院の特徴を生かし、今後も変わることなく「精密・正確・清潔」のモットーに基づいて、精密な設計のもと建築された院内で、正確に設備運用を行い、清潔な院内環境を維持してまいります。

さらに現状に甘んじることなく、歯科医師会や関連学会の勧告を順守し、海外諸機関の通知を逐次精査し、より重層的に感染対策を行うべく日々改善を図ります。

2 院内感染を防止するために

当院では院内感染を徹底的に予防するために、下記の様に重層的な対策を行っています。

① 治療時に発生する飛沫からの感染（エアゾル感染）対策

●オゾン水

治療時に発生する飛沫は、歯科特有の感染リスクとして大きく注目されています。

当院は取水口にオゾン発生装置を組み込んでいます。診察台から出る水や、うがい用のコップ内の水はもちろん、院内で使用される水すべてにウイルスに対し高い除菌力があります。飛沫にウイルスが紛れ込んだとしても、オゾン水の効果により駆除される仕組みです。

使用後のオゾン水は酸素と水に戻ります。オゾン特性上、耐性菌の出現による無効化や、人体や環境への薬剤汚染の心配はありません。

●口腔外バキューム

除菌された飛沫は、そのまま院内を漂うことなく、直ちに口元の専用のバキュームで吸い取られます。治療中の飛沫を吸い込まない様にするすることで、エアゾルから患者さんやスタッフを守ります。

(当院の口腔外バキュームは、診察室内に排気されるタイプの物ではありません。

エアゾルを含んだ排気は、専用装置を経て屋外へ排気されるように適切に設計されています。)

●除菌クーラー

すべての診察台の頭上には除菌空調が設置されています。

口腔外バキュームで吸収しきれない飛沫が出たとしても、それぞれの診察台の頭部直上に設置された除菌フィルターで吸い上げ濾過します。また、診察台を包むような空気の流れにすることで拡散を防止する効果もあります。

●陽圧空調

院内全体の気圧を高くすることで、屋外からのホコリやウイルスの直接の侵入を防ぎます。

また、排気扇との併用で院内全体に清潔な空気が流れ出来るように設計していますので、各診察室から飛沫が漏れ出たとしても逐次的確に換気されます。

●次亜塩水噴霧と湿度管理

各所に設置した加湿器により、ウイルスが生存しにくい湿度・温度となるように環境管理を行っています。また、ウイルスが空気中に混入していた場合を考え、次亜塩水による噴霧を行っています。

●換気

万が一、飛沫内のウイルスが上記のすべての条件をすり抜け生存していた場合、さらにその飛沫が、予期しない空気の滞留や過湿により浮遊し続けた場合を想定し、定期的に全面換気と清掃を行い、院内環境をリセットした上で再構築しています。

② 環境感染対策

●自動レジ

不特定多数の方が接触する紙幣・貨幣は非常に不潔でウイルスの滞留時間も長いと言われていました。自動レジを使用していますので、清潔でスピーディな決済が可能で、スタッフとの交差感染も防げます。

(もちろんカード決済や交通系電子マネー決済対応可能です。スタッフが触ることなく、ポータブル端末にて御自身でキャッシュレス決済して頂けます。)

●各診察台の配置

診察台の配置は感染対策において非常に重要なポイントです。

飛沫拡散を物理的に遮断したうえで制御された空調で清潔な空気の流れを作るため、各診察台は必ず2.5m以上離れて、窓面に沿う方向に設置され、開放的な半個室部分でも空調の位置に合わせるように1.5m以上の高さの壁で遮るように設計しています。

2.5m以上離すために院内空間を贅沢に使い3台の診察台しか設置していません。1日に診察できる人数が必然的に限られるため皆様にはご迷惑をおかけ致します、何卒ご理解の程お願い致します。

●自動ドア・自動水栓

玄関だけでなく診察室や消毒室など医院全体のタッチレス化を進めています。

特に患者さんには一切、手指接触なく診察を受けていただける環境を整えています。
(設備上、レントゲン室と車いす対応トイレの戸にはドアノブがありますので、使用者の制限やバリアテープ貼付などで対応しています。)

③ 接触感染対策

●体調管理

感染リスク判別の為、スタッフと来院された皆様に対して、来院毎にいくつかの間診と体温測定に加え SpO₂ (血中酸素飽和度) 測定を行っております。

(体温に変化なく発症されている事例があります！無症状症例を見抜くこと期待し血中酸素飽和度も計測しています。)

問診内容や測定結果によっては、自覚症状がなくとも当日の診察を中止しコロナ感染症の精査をお勧めする場合があります。皆様におかれましても、自身や周囲の方に体調不良がある場合は必ずご連絡いただきますようお願い致します。歯科治療に関しては皆様の体調にあわせ柔軟に対応いたしますのでご安心ください。

●使用器具類の滅菌管理

治療に使用する消耗品はすべて使い捨てです。場合により一人の患者さんの治療でも処置ごとに何度も交換・破棄しています。どうしても使い捨て不可能な器具に関しては、ウォッシャー・ディスインフェクターやオートクレーブなどの滅菌装置の最高クラスの運用を行い、その後の保管・管理まで清潔を徹底する為に、密閉され衛生管理された消毒室内で一貫して行っています。

衛生管理だけでなく治療精度の観点からも、今後も当院はこだわってまいります。

●診療のインターバル設定

治療を行った診察室は、診察台周囲の清掃だけでなく床面の清掃や換気を行います。その後の診察室環境のリセットを含めると一定の時間インターバルを設ける必要があります。

また、患者さん同士の接触機会を減少させるため、他の診察台の予約も考慮し診察室ごとの入退室時間をずらしたり同時刻に診察する人数やその内容を制限する等の工夫も行っています。

●衣服（特に靴）由来の感染物質の消毒

接触・環境感染対策においては飛沫だけでなく、床面に降下した汚染物質へも十分な対応が必要です。特に当院はバリアフリー対応医院として土足で診察室内に入って頂いておりますので特に気を付けています。

衣服や靴底に関しては、患者さん自身がマスクや手洗いに気を付けていても、通院中に自然と汚染されるものです。衣類から舞い散る汚れとそれに付着したウイルスは床

面に目に見えない埃となって蓄積し、スタッフの往来により院内全体と運ばれ特定困難な感染源となって広がっていく恐れがあります。

(本来ならば玄関で上着は全て脱いで頂き、お手持ちの鞆などは殺菌庫にお預かりして、全身に消毒液を振りかければ良いですが、現実的ではないと考えます。)

現在対応可能な方法として考えた結果、外套を着られている方は外側が内になるように折りたたんで脱いでいただき、靴は玄関に設置した消毒液マットでの消毒をお願いすることと致しました。

●待合椅子の変更、雑誌の撤去

待合・受付は院内で最も汚染されやすい部分です。床面清掃などを定期的に行いますが、椅子や本棚など設置した備品の洗浄は果たして何処まで徹底できているのでしょうか？

万が一も無いように、感染流行期間中の待合椅子は消毒液で丸洗い可能な物に変更し、距離を離し互いに向かい合わない方向で設置しています。また、雑誌類に関しては多数の人が接触するため、撤去させて頂いております。

●受付にパーテーション設置

待合と受付との間を、透明なパーテーションで仕切らせて頂いております。空気の流れを考慮した位置に調整して設置する事で、待合側からの飛沫・粉塵からスタッフを守ると共に、空気の対流を阻害せず持続的に換気します。

3 それでも感染する？ ー歯科医療従事者が感染源とならないためにー

三重県の歯科医院での感染に関するニュースは非常に衝撃的でした。報道では、感染した歯科医師は標準的な感染予防策を順守していたとの事です。

現在、京都府では緊急事態宣言が発出されています。感染者数は徐々に増加し、感染経路不明者が4割に迫る中、誰が罹っていてもおかしくない体制を整えるべきと思います。医療消耗品が不足する現状で対応が困難であれば規模縮小をすべき時期かもしれません。実際に休業を決定された医院や、治療は応急処置以外行わない方針の施設もあります。

当院の対応としては4月7日よりスタッフの時差通勤や個人防護具の在庫調整、なにより標準防護策を超える対応を行うために診察時間を短縮し午前のみとしています。ゴールデンウィーク以降も当院の特徴を生かし、より良い安全・安心の歯科医療の為にスタッフ一丸となってこれまで以上の対応を予定していますが、諸団体・学会の最新の勧告に従い予告なく更なる診療体制変更や予約制限をさせて頂く場合もございます。

皆様にご理解いただけるよう今後も十分に説明を行ったうえで個々に合った治療計画の立案を行いますので、何卒ご協力の程宜しくお願い致します。

令和2年4月24日

御所東デンタルクリニック

院長 奥井元貴